

受発注者の協力で、事故のない工事現場を目指す！

令和7年度 工事事故防止 重点的安全対策

令和6年度の建設工事における事故は、**34件(内公衆災害=25件)**発生しました。

近年事故発生件数は、**増加傾向**にあることより、「令和7年度 工事事故防止 重点的安全対策」を定めました。

現場代理人の皆様におかれましては、安全施工を確保される施工計画書の作成、実施、また、**現場での危険予知活動**にも尽力し、事故のない工事現場の実現をお願いします。

【対策1】 第三者の負傷・第三者車両等に対する損害の防止（公衆災害の防止）

- 適切な交通誘導
- 掘削開口部の適正な養生
- 仮設物(バリケード、仮設水道等)の適切な設置

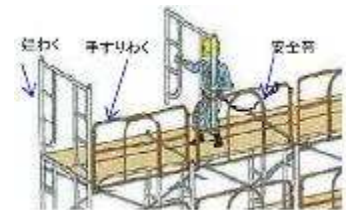
【対策2】 建設機械等による事故の防止

- 適切な施工機械の選定及び使用
- 誘導員の配置
- 運転手降車時の確実なエンジンの停止



【対策3】 足場・法面等からの墜落事故防止

- 墜落防止設備(親綱、安全な足場)の設置、使用
- 適正な墜落制止用器具(フルハーネス、安全帯等)の着用
- 安全通路の設定、周知徹底



【対策4】 熱中症対策の強化（労働安全衛生規則の改正:令和7年6月）

- 熱中症の重篤化を防止するため、以下を関係者へ周知
 - ・熱中症のおそれがある者を発見した場合の報告体制
 - ・症状の悪化を防止するための措置の実施手順(フロー図等)
- ※具体的な取り組み内容については、厚生労働省作成の以下を参照。



パンフレット「職場における熱中症対策の強化について」

<https://www.mhlw.go.jp/content/001476821.pdf>

※参考：建設現場で活用できる安全教育資料（テキスト、動画）

厚生労働省 HP 職場の安全サイト 各種教材ツール ダウンロード

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/kyozaishiryo/jpn/download.html>

【別紙】北九州市発注工事等における事故発生状況

○本市発注工事の事故発生件数 「合計の()内は公衆災害の発生件数で内数」

	土木	建築	設備	合計
令和6年度	21	10	3	34(25)
令和5年度	17	8	6	31(11)
令和4年度	9	13	5	27(18)
令和3年度	12	8	5	25(15)
令和2年度	9	7	3	19(11)

○令和6年度の事故事例 【重点対策別】

対策	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
1	市営住宅建設 工事 (建築)	公衆災害	作業のため、一時的にバリケードの固定杭を外してその場を離れた際、強風でバリケードが倒れ、当該地前に駐車していた一般車両に損傷を与えた。	安全対策の不足

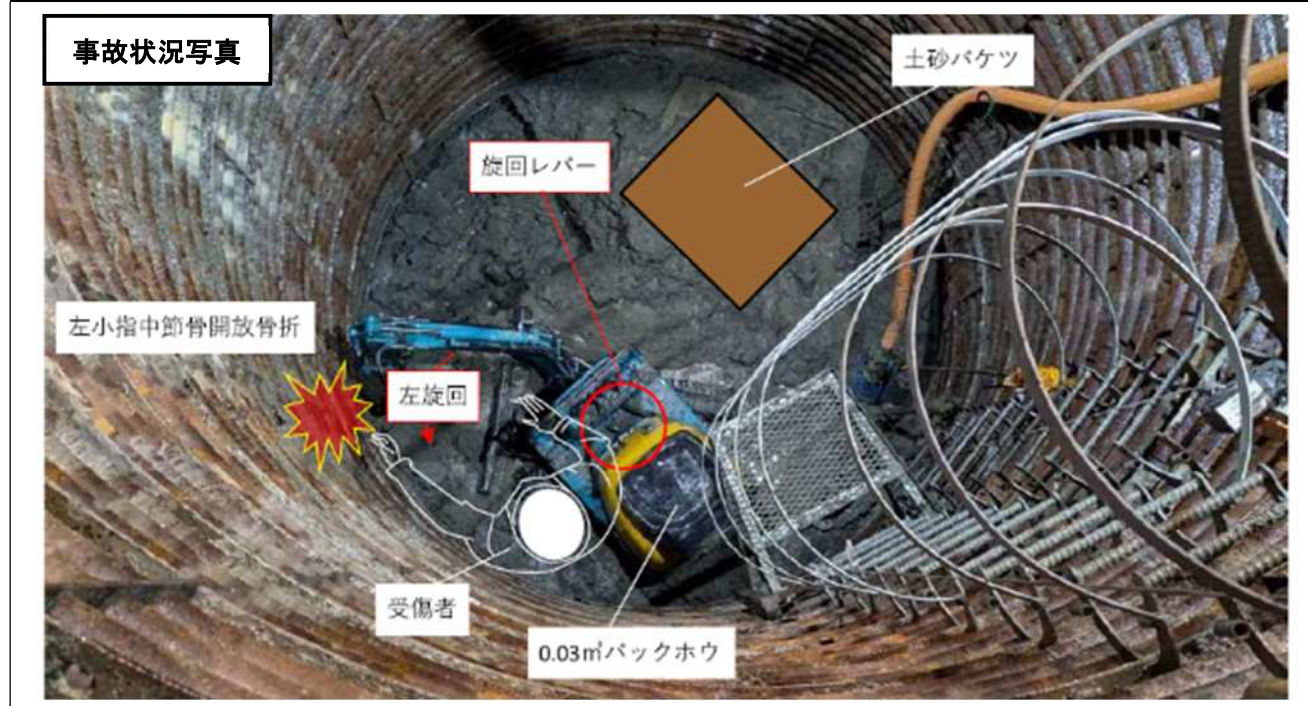
事故状況写真



対策	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
1	配水管布設替 工事 (土木)	公衆災害	交差点を自転車で横断中の高齢女性が、本工事埋め戻し作業中の開口部に落下した。	掘削開口部におけるコーンバーの不備



対策	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
2	下水管渠築造 工事 (土木)	労働災害 (はさまれ)	到達立孔内で 0.03m ³ バックホウによる立孔掘削中、土砂バケツ荷上げの為、退避しようと運転席から降りようとした。 その際に、着用していたフルハーネスがバックホウの旋回レバーに引っ掛かり、バックホウが旋回しバケットとライナープレートの上に左手小指を挟まれた。	バックホウのエンジンを停止せず、バックホウが稼働する状態で降車行動を行った。



対策	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
3	建築物耐震補強工事 (建築)	労働災害 (墜落)	作業員が、約 2m のローリング足場上で重機材(コンクリートブレーカー)を足場に上げて、単独で研り作業の準備をしていたところ、転落したもの。※フルハーネスを装着していたが、作業床高さが2m程度であり適切ではなかった。	適切な保護具 (墜落制止用器具)の未着用

事故状況写真



足場上にてコンクリートブレーカーでの研り作業の準備中に足場から落下した。

対策	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
4	プラント施設改良工事 (設備)	労働災害 (熱中症)	監督として、施工状況の確認業務に従事していた。8月の暑い中、現場、事務所を頻繁に往来した。当日は体調異常はなかった。翌日出勤し、徐々に体調悪化し、激しい頭痛と悪寒があったため、自ら救急車を要請した。風邪の診断だったが、最終的には熱中症と診断された。	気温も高い中、お盆休みで人員が少なかったため、休憩が十分とれないまま頻繁に監督業務を行った。

★工事事故が発生した場合の対応

